

藤田金属 株式会社

多彩な鉄製フライパンを提供し、顧客満足を高める

事業内容

取引先の要望がきっかけ、現在は主力製品に

昭和26年に創業、アルミニウム製金物の製造・販売を開始。「暮らしを豊かにする金属」をスローガンに“軽い”“優しい”“便利な”キッチン道具の提供を追求。アルミ製では急須やティーポット、タンブラー、鉄製では天ぷら鍋やフライパンのふたなど、使用者目線でのづくりに取り組んできた。

テレビ・インターネット販売で海外需要を拡大

平成22年からは鉄製フライパンの製造に注力。これまで培ってきたハードテンパー加工やヘラ絞加工などの独自技術を活かした取り組みで、取引先の要望に対応したことがきっかけだった。鉄製フライパンの発売後の評価は高く、徐々にサイズバリエーションを拡充。現在の同社の主力製品となっている。近年は海外への輸出向けが増えており、特に台湾や中国ではテレビショッピングやインターネット販売を中心に売り上げを伸ばしている。

藤田金属 株式会社

代表取締役社長 藤田 俊介

〒581-0035 大阪府八尾市西弓削3-8

TEL. 072-949-3221 FAX. 072-948-3635

資本金/10,000千円 従業員/11名

主な取引先/ギフトカタログ・ホームセンター・量販店・ネット販売

主な保有設備/NCスピニングマシン、パワープレス、ホーニングマシンなど

主力製品/鉄製フライパン、アルミニウム・スチール製家庭用品など

短納期

企画力

小ロット

OK

生産

OK

海外

対応

試作

OK

創業以来培った金属加工技術をフライパンに注ぎ込む

代表取締役社長 藤田 俊介

今年で創業67周年を迎えました。理念を变えることなく、より良い快適なキッチン道具を追求し続けています。熟練職人の技と最新設備を活かし、日本製にこだわったものづくりに取り組んでいます。



補助事業

海外向け大型サイズと国内向け特注品の生産性を向上

アルミニウム製金物の製造で事業をスタートした同社のヘラ絞機は、当然、アルミニウム加工の専用機。以前はこのアルミニウム加工専用機で鉄を加工していたため、生産能力や加工精度に限界があった。このような中、海外向け大型サイズの鉄製フライパンの引き合いが増加。加えて国内向けカスタマイズフライパンの生産性向上が急務となり、これに対応するため補助事業を活用。ヘラ絞りのできる最新型のスピニングマシンを導入。強みであるヘラ絞加工の技術および生産能力を大幅に向上した。

金型も自社で製造し、フリーサイズを効率的に

加えて、金型の製造設備も有する。自社製造した金型を、導入した最新型スピニングマシンにセットし、フリーサイズでも効率よく鉄製フライパンを製造することが可能となった。



最新型スピニングマシンを導入



フリーサイズも効率よく量産



海外向けの大型サイズが好調

具体的成果

新設備導入で生産能力と品質、顧客対応力を向上

最新型スピニングマシンの導入により、鉄製フライパンの生産量が1.5倍以上に向上した。例えば、直径20cmサイズのフライパンなら、当初、1日あたりの生産量が約600個だったが、新設備導入後は約800個の生産が可能となった。

従来のヘラ絞加工機ではフライパンのサイズごとに手でローラーを設定する必要があり、1回あたりの段取り時間に3時間を要していた。最新型スピニングマシンはフライパンのサイズごとにローラーの動きを記憶できるため、段取り時間が約半分に低減。手動設定によるサイズのバラツキもなくなり、再現性の高い精密加工が可能となった。そのため不良品の発生も減少した。

段取り時間が半減、製品のバラツキと不良品も減少

補助事業を活用し、最新型スピニングマシンを導入したことで、海外から引き合いの多い大型サイズ(直径36cm以上)のフライパンの製造と生産能力アップ、品質向上を同時に実現することができた。藤田盛一郎専務取締役は「この機械がなければ、納期を守れないといっても過言ではない」と強調する。

今後の戦略

国内は鉄製の知名度向上、海外は成長市場を開拓

現在、国内で流通しているフライパンのうち90〜95%はフッ素樹脂などのコーティングを施したアルミ製フライパンであり、鉄製フライパンは3%程度という。しかし近年は、特に若い主婦層を中心に、フッ素樹脂の剥離に対する安全性への懸念の声が少ない。こういった背景があり、鉄製フライパンの安全性が注目されている。

これまで鉄製フライパンは、中華料理店をイメージするプロ仕様の印象が大きかったが、ここ最近では安全性と耐久性の観点から、家庭用の販売が伸びている。同社はこの追い風に乗り、国内では鉄製のメリット・デメリットの両方を説明することで知名度の向上を図る。一方、海外については既に展開している台湾、香港、韓国、中国に加え、フィリピンやミャンマー、インド、インドネシアなど今後の需要増が見込める市場を開拓していく。

デザイン性を高めた新商品で、新たな提案に注力

加えて新製品も展開する。片手で着脱可能な独自のスライド式ハンドルを採用した鉄製フライパン「10(ジュー)」を開発。デザイン性と利便性を高めた鉄製フライパンとして提案に力を入れる方針である。

取材を終えて

培った技術力で“確かなもの”を提供する

地味であるが、フライパンは日々の暮らしには欠かせないもの。それだけに安全で長持ちする製品を提供したいという同社の理念は大きくうなずける。鉄製にこだわり、日本製にこだわり、これに使い勝手やデザイン性など付加価値を高めて提案することで、知名度とイメージの向上を図る。この取り組みは、培ってきたヘラ絞加工とハードテンパー加工の技術力が実現可能にしている。新設備の導入により生産能力も大きく向上した同社の今後の期待される。

<http://www.fujita-kinzoku.jp/> <https://frying-pan.jp/>